

八乙女

編集 南山見公民館
発行

昭和63年10月25日発行

No. 33

富山県東砺波郡井波町川原崎
TEL (0763) 82-5176

八乙女の気を集めて注ぐ不動滝
集ふ手もとに木もれ日の差す

篠原とみ子



生き甲斐のある人生を

前川 順作

南山見地区老人クラブは、六十一才より九十七才までの、巾のある広い仲間達である。

戦前は軍令下時代、戦後は食糧難時代に生き、人間一代に二回もほ場整備をして共に働いた爺さん婆さんの集まり、なんと素晴らしいことだろう。

当地区の主な活動予定は「館報三二号参照」高齢者学級、ゲートボール部会、手芸部会、お茶部会、囲碁部会等で、また長老連には、踊部会、俗曲部会、墨絵部会、書道部会、楽焼部会、木彫部会等があり趣味のある方は奮って参加して下さい。

今年もお茶部会で、新しい試みとして富山県名水不動滝の霊水で、野外茶会を八月六日実施しましたところ二五名の参加者があり、一同二時に集合、葉師如来様に参拝し篠原先生のお点前で、霊水の野外でのお茶の味と香りは天下一品、参加者一同堪能し、明年もとの声が多かった。

さらに両砺波郡三世代交流のつどいが九月一八日福岡町民公園で実施され、南山見地区より(井波町代表)小学校高学年十名、児童クラブ五名、老人クラブ五名が参加して午前十時より、福岡町名産ミニすげ笠作りに挑戦、小学生は慣れない手付きで作業に入り針で指をつく者など、和気あいあいので一二時まで全員編み上げをしました。午後は楽しいゲームやふれあい散策等で子供達は良き思い出になることでしょう。

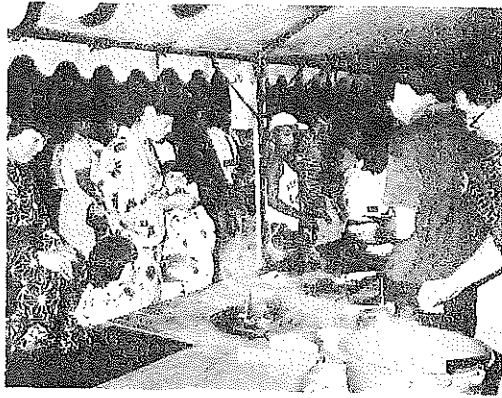
老人クラブ員も、生き甲斐のある楽しい研修、法話、講話など文化活動と体力づくりに励み、よき郷土作りに徹し、家庭では農林業等の補助手足として働き、感謝の心で余生を送って行きたいものです。

88 八乙女フェスティバル

恒例のバレーボール大会、納涼祭も本年は一日にまとめたこともあって、準備その他には役員各位の格別なご苦勞をおかけいたしました。

当日はどうか天気は左右されず盛會な行事となりましたこと、関係団体、地区の皆様方のご協力のおかげと感謝申し上げております。

殊に、納涼祭は老若男女踊り明かした昔の盆踊りに比べ、近年は中年層の踊りてが目立ち、伝統的行事の継承というには、今一つ活気に欠けるものを感じるでございます。



幸い本年は、「地域の特徴を活かしたユニークな公民館活動を」ということで、「公民館クリエイティブ活動推進事業」として、県、町より若干の予算をいただいております。当地区は「一人一文化活動を」という内容で、重点的に文化面の活動助成を考えている次第でございます。児童クラブの役員さんのお世話により、納涼祭に飾りました子どもたち「あんどん」作りも、その趣旨に

ホームステイを経験して

山口すみ子

「グッドモーニング」「オハヨウ」。へんな英語とへんな日本語で一日の会話が始まります。九月八日から二十日までの二週間、オーストラリアのサウスポートハイスクールの生徒ジェニーンを迎えることができました。

最初は、どうすればいいか、どう話せばいいか、何を食べさせたらいいか、いろいろ心配しながら学校へ迎えに行きましたところ、彼女の方から最初の言葉「コンニチハ」を言ってもらい、ホッと一安心。生活の面でもオーストラリアと何もかも違い、不便であった

添うべく企画されたものでございます。また今年も、納涼祭の盛りあがりをお願いとして成年部、婦人部、青年団、たんぼぼ等、各団体の楽しい企画をしていただきましたことを感謝申し上げます。

私の作ったものをほとんど食べてくれましたので本当に助かりました。箸を使うことや、正座して食べることも「チャレンジ、チャレンジ」と意気込んで挑戦いたしました。大きな娘が一人増えたよう子供達と兄弟同様にとけ込み、英語の教科書を読んでもらったり、折り紙をしたり、楽しい二週間でした。



ホームステイの期間中、立山や利賀へ行ったり、三日ばかり泊まりましたが、生憎の天候で残念でした。夏の花と、富山の紅葉の素晴らしさを見てもらえたならと少しばかり心残りに思います。でも瑞泉寺は印象的だったようです。

二週間の日々ですっかり私達家族の一員となりました。楽しい思い出をありがと。子供達にとっても私にとっても一生の思い出になりました。

今思えば、真心をもって接すれば、たとえ言葉が通じなくともなんとかなるものだとつくづく思いました。

ろうと思いますが、いつも笑顔で「OK」「ベリーナイス」とか私達の質問にも気軽に答えてくれ、食事の方

寿賞のみなさん紹介

〔米寿〕

武田久太郎
澤田みちい

〔傘寿〕

武田清吉
池田ひさ
箭原久信
堀越と
箭原みゆ
池田きく
箭原はる

〔喜寿〕

徳成みよ
武田きく
田村き
山本野
狩池田
前田幸
い緑そ
久作な
前川村
田縁田
せはふ
きるさ

種目	1組 (赤)	2組 (白)	3組 (青)	4組 (紫)	5組 (黄)	6組 (緑)
涌水レース	10	8	2	4	6	12
ボールレース	2	4	6	8	5	1
ボールはねレース	3	1	4	2	5	6
玉入れ	1	3	6	15	4	5
クイズボール	6	5	2	1	3	4
ゲトボール	8	5	2	1	4	6
百足レース	4	1	2	3	6	5
障害物レース	2	1	8	4	6	5
綱引き	8	4	12	6	10	2
年代別リレー	8	4	2	10	12	6
得点合計	42	86	41	85	61	52
総合順位	8	5	4	6	1	2

◆井波町体育祭
雨天のため中止 残念でした。

(十月九日)

幸いお天気に恵まれ、係の皆さんに午前中より準備していただき、満水レースを皮切りに熱戦がくりひろげられました。
成績は次の通りです。



◆第四回フレッシュテニス大会

(六月二十五日)

40歳未満の部

- 一位 狩野和浩・狩野陽子チーム
- 二位 高田敏明・高田多真美チーム
- 三位 山田敏行・武田十四子チーム

40歳以上の部

- 一位 井上辰夫・井上智子チーム
- 二位 岩崎寛・岩崎貴美子チーム
- 三位 森哲男・森好枝チーム

◆第九回バレーボール大会

(八月十五日)

- 優勝 沖 Aチーム
- 次勝 院瀬見第二チーム
- 参勝 院瀬見第四チーム

女子34歳以下の部

- 優勝 院瀬見ヤングママーズA
- 女子35歳〜44歳の部
- 優勝 今里マーガレット
- 女子45歳以上
- 優勝 沖サウスウインド

◆ゲートボール

読売新聞杯争奪戦

(庄川閑乗寺にて 六月十二日)

次勝 南山見チーム

第十三回井波北陸銀行GB大会

(七月十七日)

- 優勝 南山見C組
- 次勝 南山見A組

◆第十九回井波町児童クラブ野球大会

(七月二十四日)

優勝 南山見児童クラブ

◆第七回児童クラブ女子ソフトボール大会

(七月二十四日)

準優勝 南山見女子ソフト部

◆第四回井波町ビーチ

バレーボール大会

男子45歳以上の部

- 優勝 南山見フォークス



※いきいきグループ紹介※

南山見すみれ会

むかしから唄い踊り続けられた伝統文化の中で、気軽に楽しめ、体を動かすことで健康にもつながる民踊を始め、すみれ会を結成して十年余りになります。好きなもの同志の集まりですから、練習日は待ちどおしく、この日ばかりはどんな都合も濟ませ全員公民館に集まります。これも各位の暖かいご支援と家族の理解があったからこそ、こ

- ・すみれ会民踊教室
毎月第一・第三の金曜日
午後八時から
 - ・子ども民踊教室
毎月第一、第三の土曜日
午後二時から
- 会場はいつでも南山見公民館

青年の船に参加して

山本幸世恵

さる七月六日から二十一日まで、第十八会富山県青年海外派遣（日本海をめぐる富山県友好の船）の団員として、中国・韓国ソ連の三カ国訪問に、視野の拡大と大勢の人々とふれ合い自身自身を成長させるために参加しました。家族たちに見守られ

ながらテープを握りしめ、これからの異国へと向かう船で、青年の船に参加することに賛成し励ましてくれた周りの人々の機体で答えられるだろうかと不安で、涙を流してしまいました。中国へと向かうにつれ、レッシュャーを忘れてしまいました。最初、中国の大連港では、子供達がパンダなどの衣装で私達団員を熱烈歓迎してくれました。四日間の滞在の中で中国の誠実さと私達の国、日本はなんて豊かな国だろうと思

ここまで続けてこれたものと感謝致しております。これからも日本民踊を正しく理解し、楽しみ、踊りの輪を広げ、健康増進を図り、地域の文化の向上に寄与したいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

(武田)

ました。

第二の訪問の国、韓国は今年オリピックが行われることもあり、日本に似ていてなつかしさを感じさせられました。ここでは私達はホームビジット（夕食会）を行いました。言葉が通じないから、身振り手振りで……と思うなり相手の男の学生が日本語で話すのでビックリしたのですが内心ホッとしました。招かれた家は男の子の女の友達の所で私たちが来るということわざわざ日本向きの料理を準備してくれて、男の子を通訳に日本のことなど話しながら会食することができました。帰りに紙を出す約束をしました。

第三の訪問国ソ連は暗い国だと思っ

ていましたが、ロシアの人々は暖かく私たちと接してくれました。特にロシアの子供のあどけない笑顔が今でも忘れられません。
こんな貴重な体験ができたことを感謝するとともに、この体験を生かせるように努力していきたいと思

第十一回

南山見地区文化祭

十一月二十日(日)

作品展示・ステージ発表
農産物品評会・バザー
皆さんの作品をお待ちしています。

編集後記

秋深し。収穫もやっと一段落。こんな田舎の店先にも輸入の品が満ちあふれている。海外へ行く人が増え、また、日本に住む外国人を見かけることもそう珍しいことではなくなっている。国際化の時代である。

数少ない自給食糧の主食のコメが、外庄により市場開放の嵐に大きくゆれ動いている。実現したら、農業と農村の崩壊にもなりかねない。とはいつてもこのままではよいとは誰もが思っていない。各地で「町おこし」「村おこし」のうねりの声が聞こえる。衆知を結集しよう。間もなく文化祭。手をとり輪を広げよう。

冷やかな月の出見たり瑞泉寺

祐久 IKI